

例年に比べて、短い夏休みが終わりました。

本当に暑い日が続きましたが、受験勉強や部活など、それぞれ充実した日々を過ごしたのではないかと思います。そのような中、いよいよ2学期の始まりです。

2学期は、いろいろな意味で中心となる、大切な学期です。

新型コロナの影響で、今後のことについては不透明な部分が多いです。

日々移り変わる情勢に対応しながら、進んでいくしかありません。

しかし、どのような道を通ったとしても、皆さんのゴールが変わることはありません。

1学期にも話をしましたが、厳しい状況や思い通りにいかないことを、周りの責任にして不平や不満を言ったところで、何の解決策にもなりません。

大切なのは、自ら乗り越える手段を見つけ出すことです。そして、前を向いて行動することです。ぜひ、夢の実現に向けて一歩一歩進んでください。

さて、1学期の終業式で、感染症による人権侵害の話をしました。残念ながら今月に入ってクラスターが発生した島根県の高校には「学校をつぶせ」とか「日本から出ていけ」といった電話や書き込みが相次ぎました。また奈良県の大学では、感染とは無縁の学生がアルバイトを不当に解雇されるということが起こりました。さらに、お盆に帰省した人の玄関先に、「さっさと帰ってください。みんなの迷惑になります」というビラが置かれるという事件もありました。改めて「人間」の心理や行動の怖さを実感したところです。

今後、ますます社会のグローバル化が進み、人の考えが多様化する中で、お互いを尊重し、認め合うことが大切になってきます。そういう意味では、これからの社会を生きる皆さんにとって、今回の緊急事態は、ピンチであるとともに、人との関わり方ということについて考える絶好の機会でもあります。ぜひ、周りの人に対する自分自身の接し方がどうなのかということについて、振り返ってください。

そこで、今日は、人との関わり方の根本である「言葉」について話をしようと思います。

「言葉」は、人と人をつなぐ大切なツールです。

しかし、単に繋ぐという役割だけでなく、時には他人を勇気づけたり、支えたりもします。

今年の7月、沖縄のある病院に、地元の中学生たちが「励ましと感謝の言葉」を送り、勇気づけられた病院関係者から涙と共に感謝状が贈られるというニュースが報道されました。

皆さんの中にも、つらい時、悩んでいる時、落ち込んでいる時に友達がかけてくれた「たった一つの言葉」に助けられた経験を持っている人が多くいると思います。

ところが、言葉は使い方を間違えれば凶器となり、相手の心を傷つけることもあります。

例えば「死ね」、とか「殺すぞ」という言葉は、本来は何よりも大切な「命」を軽く見た人権を侵害する言葉です。しかし、残念ながら、いとも簡単に使われる場面が見られます。

このような発言をしてしまうのは、言葉の意味を深く考えていないうえに、言われた人の気持ちが想像できないからです。もちろん、発言をした人が冗談のつもりで言ったことはわかります。しかし、「死ね」と言われて、良い気持ちになる人は一人もいません。

また、言葉は、聞く側の心の状態や、受け取り方によって、全く印象が変わるものです。

皆さんに、「ひとつの言葉」という詩を紹介します。

有名な詩なので、どこかで聞いたことのある人もいると思います。

ひとつの言葉でけんかして、ひとつの言葉で仲直り。
ひとつの言葉で頭が下がり、ひとつの言葉で心が痛む。
ひとつの言葉で楽しく笑い、ひとつの言葉で泣かされる。
ひとつの言葉はそれぞれに、ひとつの心を持っている。
きれいな言葉はきれいな心、優しい言葉は優しい心。
ひとつの言葉を大切に、ひとつの言葉を美しく。

この詩は、北原白秋という詩人によって100年ほど前に読まれた詩です。
100年たった今、改めて、大切なことを教えてくれているような気がします。

インターネットが発達し、簡単につながるできるようになりました。しかし、その反面、相手の表情や姿を見ないままの会話が多くなり、「言葉一つひとつ」の重さが薄れ、相手の気持ちを考えない言葉によって、容赦なく攻撃する場面が増えているような気がしてなりません。

言葉には温かさや冷たさがあります。

人を励ましたり、支えたりする言葉は、人の心を温かくする言葉。プラスの言葉です。

一方、人を否定したり、傷つけたりする冷たい言葉はマイナスの言葉です。

「言葉」は心の表れです。心の優しい人は、勝手にプラスの言葉が出てきます。

また、逆の事も言えます。

もちろん、高校生だけの問題ではありません。全ての人が、お互いの気持ちを考えながら、温かい言葉のやり取りをすれば、職場や学校も含め、全ての生活が豊かになります。

ぜひ、皆さんも、自分自身が周りの人にどのような声掛けをしているか、そして、自分自身の心の持ち方がどうであるかについて一度振り返ってみてください。

これからも桜塚高校が、暖かい言葉に満ちた、素晴らしい学校であることを願います。
それでは、2学期、皆さんそれぞれが、成長することを期待し、私の挨拶とします。